

## 第3学年 英語科学習指導案

日 時：令和4年11月10日（木）5時間目

対象学級：北上市立江釣子中学校

3年B組 32名（男子18名、女子14名）

指 導 者：教諭 佐野 友香

### 1 単元名 PROGRAM6 The Great Pacific Garbage Patch (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

### 2 単元の目標

海のために自分たちができることを伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で考えたことを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 3 単元について

#### (1) 生徒について

本学級の生徒は、これまでペアやグループでの活動において、他者と協力して学習を進めることができおり、意欲的に活動に取り組む生徒が多い。

しかし、その日に学習した内容を覚えようとしたり、活動に積極的に取り組んだりする一方で、時間が経ってから習った知識を応用することは難しい。また、生徒の多くが「書くこと」「話すこと」に対する苦手意識をもっており、内容にまとまりのある英文を書いたり、発表したりすることに対して自信がない。

そこで、1学期後半から習った学習をアウトプットすることができる「Retell」に力を入れて取り組んできた。その結果、生徒は本文の中から必要な情報を選んだり、関連する英文を抜き出したりして、まとめ文を書くことができるようになってきた。本単元では、自分の習った知識をさらに深めるために、「書く」だけでなく、「話す」ことにより、より深い教材理解を促していきたい。

#### (2) 教材について

本単元は、海の環境問題に関する題材である。人間が使ったプラスチックなどのごみが海のある一帯に流れついて、巨大なごみの帯を作り出しており、それが生物に危害を与えている。この問題を解決するために私たちは行動を起こさなければならない、という強いメッセージ性のある単元である。内陸に住んでいる生徒にとって海の環境問題は捉えにくい問題である。そのため、修学旅行で訪問した水族館の展示や、海の波際に打ち寄せられたごみを撮った写真を使ったり、「2050年には魚よりもごみの数の方が上回る」という事実を伝えたりすることによって、環境問題について身近に捉えさせていきたい。また、中学生の私たちに何ができるのか、と考えさせることで環境に対して関心をもたせる機会としたい。

言語材料は、学習指導要領の内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項—エ 文、文構造及び文法事項(ウ)文法事項—a(b)「関係代名詞のうち、主格の that, which, who, 目的格の that, which の制限的用法」が扱われている。前単元では関係代名詞の主格を学習しているため、本単元で学習する目的格との違いを明確にさせたい。また、人や物について詳しく説明することで、「以前より多くの情報を伝えられるようになった」と達成感をもたせたい。

### (3) 指導について

本単元におけるゴールの言語活動として、教科書の内容を Retell した内容を用いてポスターを作成し、それに加えて生徒が海に対してできることを考え、発表するというパフォーマンス課題を設定した。また、その際に「海の環境問題について初めて触れる人に対しても分かりやすく伝える」という観点を入れることにより、代名詞や生徒が本単元で習った関係代名詞の活用が期待できると考える。

また、そのゴールの言語活動に向けて、Think の 1 単位時間ごとに、本文に対してタイトルを付ける活動や本文を何度も読み返すようなワークシートを使用することで、ゴールの言語活動では、どのような学習を行ったのか想起しながら自分の言葉で Retell ができるようにしていきたい。

また、チームでポスターを作成する前段階として、1 人 1 台端末の Chromebook における Document の共同編集機能を使って一斉に英文を入力させることで級友の表現を参考にさせ、単語などの間違いを互いに指摘させ合ったりするなど、互いに高め合う活動を取り入れたい。また、チームでポスターを作成することにより、生徒同士の関わり合いをより深めていきたい。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知識</b></p> <p>which や that を使った関係代名詞の特徴や決まりを理解している。</p> <p><b>技能</b></p> <p>身近な人物や物について関係代名詞などの簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</p>	<p>海のために自分たちができることを伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で考えたことを整理し、簡単な語句や文を用いて、話している。</p>	<p>海のために自分たちができることを伝えるために、教科書の内容から読み取ったことや自分で考えたことを整理し、簡単な語句や文を用いて、聞き手に配慮しながら主体的に話そうとしている。</p>

5 単元の指導と評価の計画（8時間）

単元全体の課題 「海のために自分たちができることを伝え合おう！」

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p><b>今、海に何が起きているのだろうか？</b></p> <p>【単元導入・Scene 1】</p> <p>○本単元で学ぶ内容及びゴールの言語活動を確認する。</p> <p>○関係代名詞 which や that の用法を理解する。（前時の用法とは異なることを理解する。）</p> <p>○which を使って身の回りの物を詳しく説明する。</p>	<p>○単元のゴールを具体的に確認することにより、生徒の主体的に学びに向かう姿勢を高める。</p> <p>○写真を黒板に貼ったり、健とエミリーの会話文を流したりする。</p> <p>○PROGRAM5 で習った関係代名詞とは何が違うのか、違いに気づかせることができるようにする。</p>	<p>【知・技】</p> <p>関係代名詞 which や that を用いた文の構造を理解している。</p> <p>【主】</p> <p>健とエミリーの対話や教師の話聞き、本単元で学習することについて捉えようとしている。</p> <p>○学習プリント</p> <p>○振り返りシート</p>
2	<p><b>身の回りの物を詳しく説明しよう。</b></p> <p>【Scenes 2・3】</p> <p>○前時の復習</p> <p>○関係代名詞を使わずに、人や物を詳しく説明する方法を理解する。</p> <p>○that を使って身の回りのものを詳しく説明する。</p>	<p>○例文を提示する。</p> <p>○最終的には which や that を省略した形であることに気づかせたい。</p>	<p>【知・技】</p> <p>that を用いた文の構造を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>That の用法の理解をもとに、簡単な語句や文を用いて身の回りのものを説明することができる。</p> <p>○学習プリント</p> <p>○授業での様子</p>
3	<p><b>「島」の正体は何だろうか？</b></p> <p>【Think 1】</p> <p>○本文の内容確認・音読。</p> <p>○太平洋に浮かぶ「島」の正体がかどうか読み取り、説明する。</p>	<p>○内容理解を促す音読ができるように、教材を工夫する。</p> <p>○関係代名詞を使って島を説明するときは、書き出しを「The land…」でそろえて書くよう指示する。</p> <p>○読み取った内容をもとに、本文にタイトルをつけさせる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>①本文を読んで、概要や要点を捉えている。</p> <p>②関係代名詞の理解をもとに、「島」について説明することができる。</p> <p>○学習プリント</p> <p>（内容理解・英作文）</p> <p>○授業での様子</p>
4	<p><b>海の生き物たちにどんな危険がせまっているのだろうか？</b></p> <p>【Think 2】</p> <p>○本文の内容確認・音読。</p> <p>○大量のゴミによる被害状況について英語で簡潔にまとめる。</p>	<p>○本文の要点を抑えるために、文章に番号を振るなど、全員で確認しやすい手立てを考える。</p> <p>○最後に True or False をするなど、本文をどの程度把握できたか確認する。</p> <p>○読み取った内容をもとに、本文にタイトルをつけさせる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>本文を読んで、概要や要点を捉えている。</p> <p>○学習プリント</p> <p>（内容理解・英作文）</p> <p>○授業での様子</p>

5	<p>ある青年の取り組みを読み取り、海を守るために自分にできることを考えよう。</p>	<p>○ボイヤンさんの取り組みを黒板にまとめることで、自分の意見をまとめる際の参考にさせる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>①本文を読んで、概要や要点を捉えている。</p> <p>②環境問題に対して自分ができていることを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。</p> <p>○学習プリント (内容理解・英作文)</p> <p>○授業での様子</p>
	<p>【Think 3】</p> <p>○本文の内容確認・音読。</p> <p>○ボイヤンさんの取組を聞いて、自分が環境問題に対してできることは何か、短い英文を書く。</p>	<p>○読み取った内容をもとに、本文にタイトルをつけさせる。</p>	
6 本時	<p>海が抱える問題について、自分の言葉で伝え合おう。</p>	<p>○自分の言葉で説明できるよう、マッピングシートを活用する。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>教科書の内容から読み取った情報や自分で考えたことを整理し、海の環境問題について伝え合うことができる。</p> <p>【主】</p> <p>聞き手に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて海の環境問題について伝え合おうとしている。</p> <p>○Google Document</p> <p>○学習プリント</p> <p>○授業での様子</p> <p>○Chromebook で録画</p>
	<p>【Retell 1】</p> <p>○本文の内容確認・音読。</p> <p>○1人1ページ Retell を行う。</p> <p>○グループでまとめ、PROGRAM6 の Retell を完成させる。</p>	<p>○ポスター作りの基礎になる部分であるため、「初めて見る人へ向け」という視点をもたせる。</p> <p>○グループワークを工夫することにより、Retell 内容をより充実させる。</p>	
7	<p>海が抱える問題について、自分の言葉で伝え合うためにポスターを作成しよう。</p>	<p>○どのようなポスターが「初めて見る人」にとって分かりやすいか、ポイントを与えながら作成していく。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>情報を整理し、学習したことを生かしながら海が抱える問題についてのポスターを作成することができる。</p> <p>○授業での様子</p> <p>○ポスター</p>
	<p>【Retell 2】</p> <p>○前時に Retell した内容を元に同じグループの人と一緒にポスターを製作する。</p> <p>○ポスター発表の練習。</p>		
8	<p>海のために自分たちができていることを伝え合おう。</p>	<p>○生徒を「発表する側」、「発表を聞く側」に分ける。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>グループで作成したポスターをもとに、海が抱える問題について伝え合うことができる。</p> <p>【主】</p> <p>海が抱えている問題を理解したうえで、自分たちに何ができているのか伝え合おうとしている。</p> <p>○授業での様子</p> <p>○発表</p> <p>○振り返りシート</p>
	<p>○ポスターを使って発表する。</p> <p>○PROGRAM を振り返っての感想を書く。</p>	<p>○Marty 先生に事前に評価の観点を伝えた上で、発表を見て評価してもらおう。</p>	

## 6 本時の指導（6時間目/全8時間）

### (1) 目標

海のために自分たちができることを伝えるために、教科書の内容から読み取った情報や自分で考えたことを整理し、簡単な語句や文を用いて海の環境問題について伝え合うことができる。

### (2) 評価規準

おおむね達成	未達成生徒への支援・手立て
<p>【思考力・判断力・表現力等】 教科書の内容から読み取った情報や自分で考えたことを整理し、海の環境問題について伝え合うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 教科書の内容から読み取った情報や自分で考えたことを整理し、聞き手に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて海の環境問題について伝え合おうとしている。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】 教科書の内容から読み取った情報やグループのメンバーと共に考えたことを元に、海の環境問題について伝え合わせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 グループのメンバーの表現を参考にしながら、簡単な語句や文を用いて海の環境問題について伝え合わせる。</p>

### (3) 指導構想（本校の研究主題とのかかわり）

本時は単元全体の目標である「海のために自分たちができることを伝え合おう！」の6時間目（全8時）である。

本校の研究主題は学びつづける力を育てる授業実践のために、学び方を「学びの型（学びのプロセスを授業に当てはめて具体的にしたもの）」として定義し、「主体的・対話的で深い学び」に留意しながら授業改善を行い、質の高い学び、生涯にわたって主体的に学びつづけられる生徒の育成を目指して校内研究を推進している。「学びのプロセス」を重視した授業で、生徒の力を育てたり高めたりすることをねらいとし、研究内容が各教科・領域等の教育計画や授業に生かされるように取り組んでいる。

その「学びのプロセス」は、以下のとおりである。

#### 《学びのプロセス》

- ① 目的意識をもちながら課題に立ち向かう
- ② 解決までの道のりを見通し、解決方法を予想し、解決方法を学んだり選択したりする
- ③ 予想やモデル（やり方）を参考にして熟考したり、思考錯誤したりする
- ④ 他とのかかわりを通して課題解決する
- ⑤ 学習をふり返り、新たな課題に向かう

本時では、「海のためにできること」を伝えるためのポスター作りの下書きとなる Retell を取り扱う。本文3ページを2～3人のグループ内で1ページずつ Retell をする分担を決め、さらに同じページを担当する生徒同士でグループを形成し、情報交換や練習をしたうえで、最初のグループに戻り Retell を発表する。このようなジグソーアクティビティを取り入れることで、同じページを担当する生徒同士で必要な情報を取捨選択し、自分の意見だけではなく他の生徒の参考になる意見を取り入れさせるようにしたい。また、グループで考えたマッピングをもとに同じページを担当するグループの生徒と何度も練習を重ねることで、他の生徒の良い表現や発表の仕方を参考にしながら、Retell を高めていき、「③予想やモデル（やり方）を参考にして熟考したり、思考錯誤したりする」、「④他とのかかわりを通して課題解決する」という学びのプロセスを踏ませたい。また、練習の途中で、「初めて海の問題について聞く人に対して、どのような表現をすれば伝わりやすくなるのか。」という視点を与えることで、グループで Retell した内容がよりよいものになるよう工夫させていきたい。

授業全体を通して、生徒同士の関わり合いを大切に言語活動・学習活動を行うことで、「主体的に学習に取り組む生徒」を育成したいと考える。

(4) 本時の展開

段階	生徒の思考・学習過程	学 習 活 動	
	プロセス＝〔学びのプロセス〕★	生徒の活動（○主な発問等）	□指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	1. 挨拶	隣の席の人と英語で簡単に挨拶をする。	□指導上の留意点 ◆評価  □テレビで画像を表示する。
	2. 内容確認  ★①何を学ぶのか	生徒とやり取りをしながら、前時までに学習した本文の内容を確認する。	
本時の学習課題 海が抱える問題について、自分の言葉で伝え合おう。			
展開 35分	3. 本時の内容確認 ★②どうすればいいのか	Today's Menuで本時の内容の見通しをもつ。	□単元及び本時のゴールをイメージさせる。  □3人グループは前時まで決めておく。
	4. Retell  ★③覚えたい 身に着けたい	Retellの手順を確認する。 ※●→ポスターを作成するグループ ○→同じページのRetellを担当する生徒が集まったグループ  ①グループ内でRetellするページを分担する。 ②同じページを担当するメンバーを3～4人グループに分け、そのグループ内でRetellするページの内容を工夫して復習する。 ③担当したページの英文から、海の抱える問題を説明する上で必要な情報を抜き出し、協力してマッピング活動を行う。 ④グループのメンバーとRetellの練習をする。	
終末 5分	★④高めたい	「初めて見る人」が理解しやすいようにするためにはどうしたらよいか工夫させる。 →顔を上げる、ジェスチャーを付ける →簡単な言葉で言い換える。 →代名詞の対象をはっきりさせる。	◆マッピングシート  □前時のretellで簡単な言い換えをしていた生徒の例を見せる。
	★④伝えたい	⑤グループに戻り、練習したRetellを発表し合う。	□机間巡視 ◆Chromebookで撮影
本時のまとめ 海が抱える問題について、自分の言葉で伝え合おう。			
終末 5分	5. 振り返り ★⑤何ができるようになったのか	振り返りシートを使って、今日の授業を振り返る。 感想を生徒同士共有です。	◆振り返りシート
	6. 次回予告	次回の学習の見通しをもつ。	
	7. 挨拶	終わりの挨拶をする。	